

チャイルドシートアンケートのまとめ

新潟県小児科医会会長 川崎琢也

はじめに

新潟県警の平成 28 年の調査では、新潟県の 6 歳未満の子供のチャイルドシート使用率は 49% で全国ワースト 3 位です。下表のように、全国と比較して 1 歳未満はそんなに悪くはないのですが、大きくなるにつれてぐっと低下していきます。

	使用率 (%)			6 歳未満 全体
	1 歳未満	1~4 歳	5 歳	
新潟県	84.4	50.0	25.0	49.0
全国	85.7	66.8	39.1	64.2

このような状況の中、チャイルドシートの啓発のため、チャイルドシートに関するアンケートを行いました。保護者の方にアンケートにお答えいただき、その回収の際に「回答と解説」をお渡しし読んでいただくことで、チャイルドシート装着の重要性について知っていただけたらと考えました。

方 法

アンケートは県内の小児科の先生にお願いし、外来を受診した保護者の方にお答えいただきました。当会理事の 20 人の先生には 0~5 歳各年齢 10 例ずつ計 60 例、当会会員の 83 人の先生には、特に啓発が必要と考えられた 4 歳、5 歳の 10 例ずつ計 20 例の方のアンケートをお願いしました。

具体的なアンケートの内容ならびに回答と解説は別紙 1.2 に示します。

結 果

19 人の理事並びに 52 人の会員の先生より、のべ 2110 枚のアンケート（総配布数 2860 部、回収率 73.8%）を実施していただきました。

1、全体像

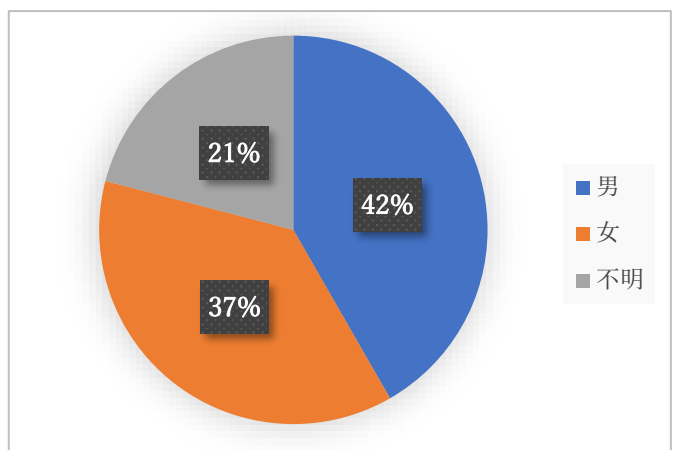
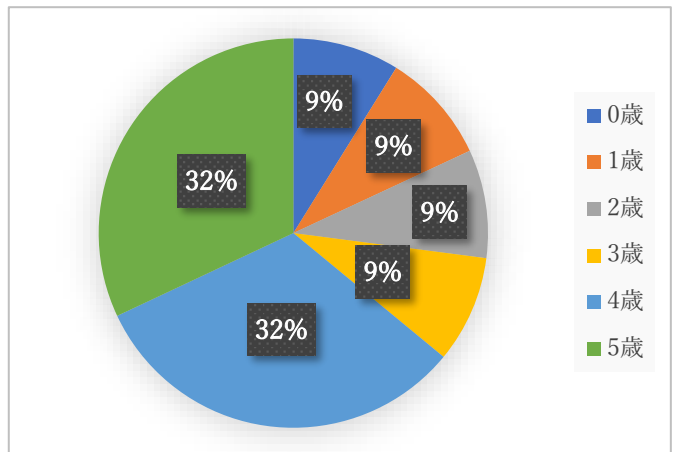
Q 1、お子さんの年齢はおいくつですか？性別は？

子どもの年齢

0 歳	187 人 (9%)
1 歳	194 人 (9%)
2 歳	190 人 (9%)
3 歳	188 人 (9%)
4 歳	676 人 (32%)
5 歳	675 人 (32%)
合計	2110 人
平均	3.42±1.64 歳

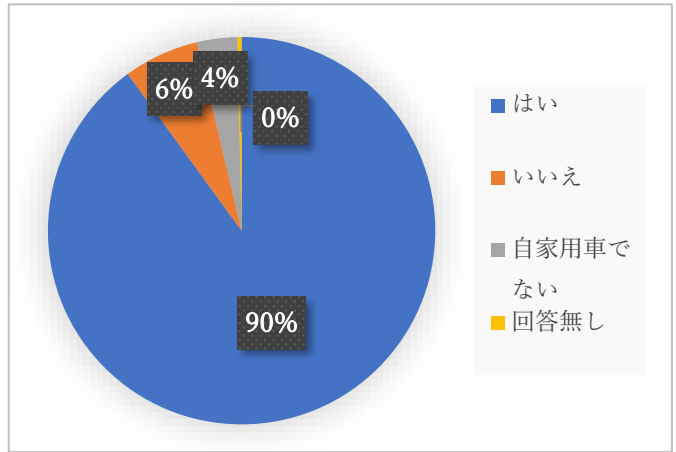
子どもの性別

男	880 人 (42%)
女	788 人 (37%)
記入無し	442 人 (21%)



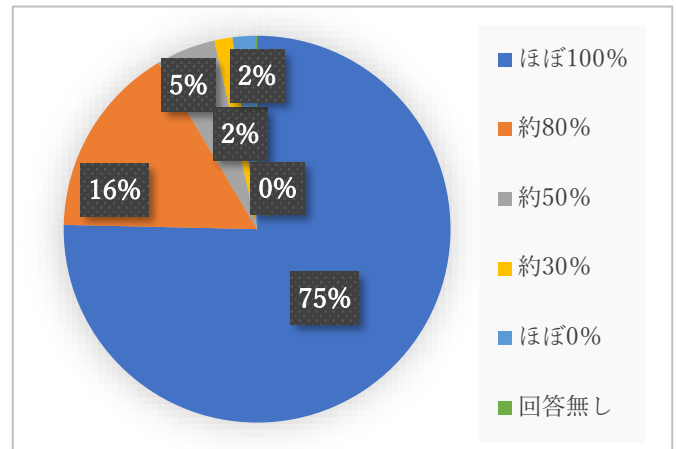
Q 2、今日受診の際に、チャイルドシートを使用してきましたか？

はい	1899 人 (90%)
いいえ	133 人 (6%)
自家用車でない	71 人 (4%)
回答無し	7 人 (0%)



Q 3、普段お子さんが自家用車に乗る際にチャイルドシートをどの位使用していますか？

ほぼ 100%	1590 人 (75%)
約 80%	340 人 (16%)
約 50%	105 人 (5%)
約 30%	32 人 (2%)
ほぼ 0%	41 人 (2%)
回答無し	2 人 (0%)

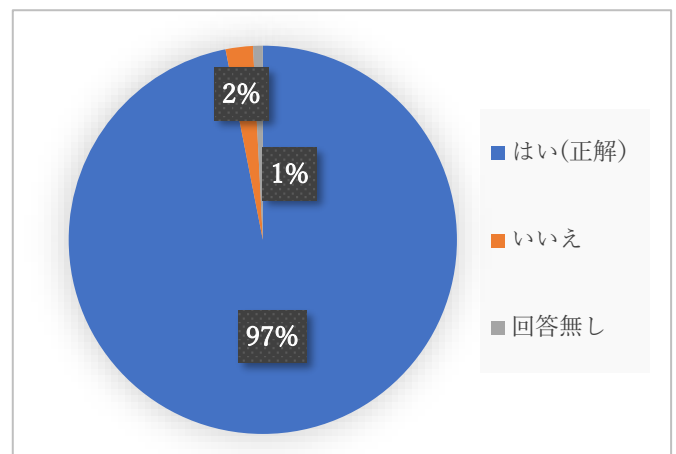


Q 4、6歳未満のお子さんはチャイルドシートの使用が法律で義務付けられていることをご存知ですか

はい (正解)	2045 人 (97%)
いいえ	48 人 (2%)
回答無し	17 人 (1%)

違反者には罰金はありませんが、点数が減点されます。

(道路交通法第 71 条の 3 第 3 項)

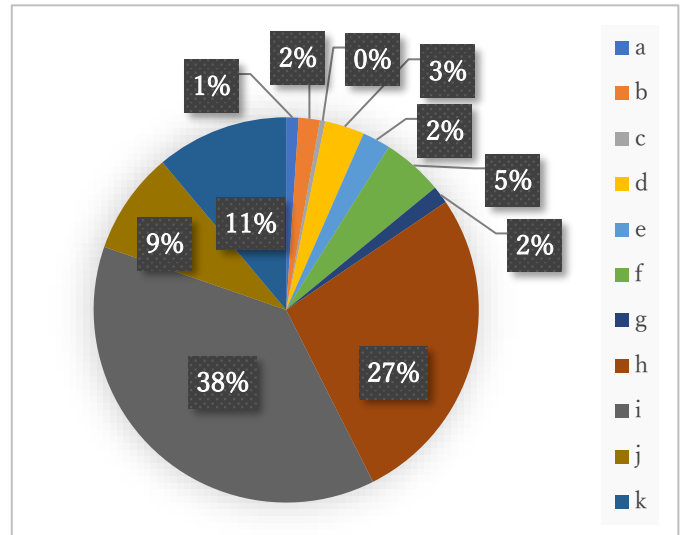


Q 5、チャイルドシートを使用しないことがある場合、その理由はどのようなものですか？

複数回答可としました。選択肢とそれを選んだ人数はそれぞれ

- a、チャイルドシートが義務づけられていることを知らなかったから：14人
- b、チャイルドシートが義務づけられていることは知っていたが、罰金がないと思っていたから：24人
- c、経済的理由でチャイルドシートを持っていないから：6人
- d、チャイルドシートを取り付けるとその席が固定され不便だから：45人
- e、後席は比較的安全だと思うから：32人
- f、大人用のシートベルトで十分だと思っていたから：69人（第4位）
- g、抱っこでも安全だと思うから：20人
- h、近距離しか乗らないから：365人（第2位）
- i、子供が嫌がったから：510人（第1位）
- j、面倒だから：116人（第3位）
- k、その他：150人

- 他の車に乗せる時 4.6%
- 子どもの具合が悪い時 2.5%
- 自分で外す 1.3%
- 授乳時など

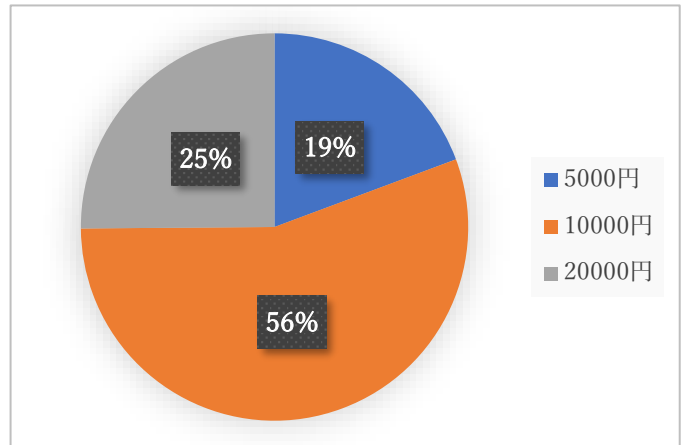


Q 6、チャイルドシートをお持ちでない方にお聞きします。幾ら位の補助があれば購入されますか？

実際に経済的理由で持っていないと答えた方は6人でしたが、207の方が回答してくださいました。

その中で多かったのは10000円で115人56%でした。

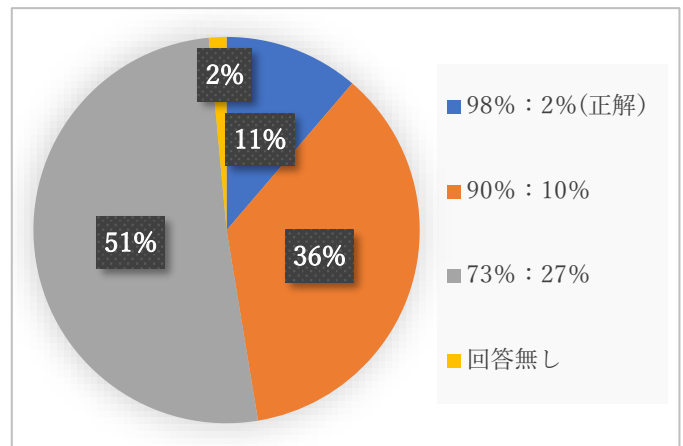
新潟県内では、加茂市、燕市、胎内市で補助金の支給が行われています。



Q 7、一般道と高速道路の交通事故の件数の割合はどれ位だと思われますか？

警察庁の交通事故データ平成28年版によると1年間に起きた事故は、全部で499201件、高速道路での事故は9198件（全事故件数の約1.8%）でした。

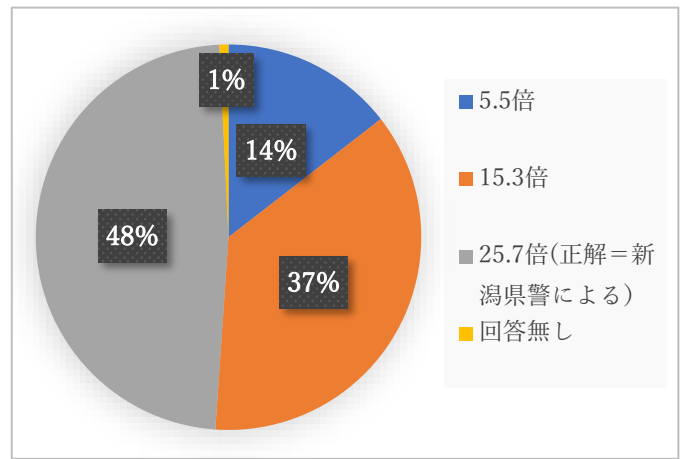
正解の98%：2%とした方は238人11%で、多くの方は高速道路での事故の比率がもっと多いと考えているようです。



Q 8、チャイルドシートの使用の有無で交通事故の際の死亡率が何倍になると思われますか？

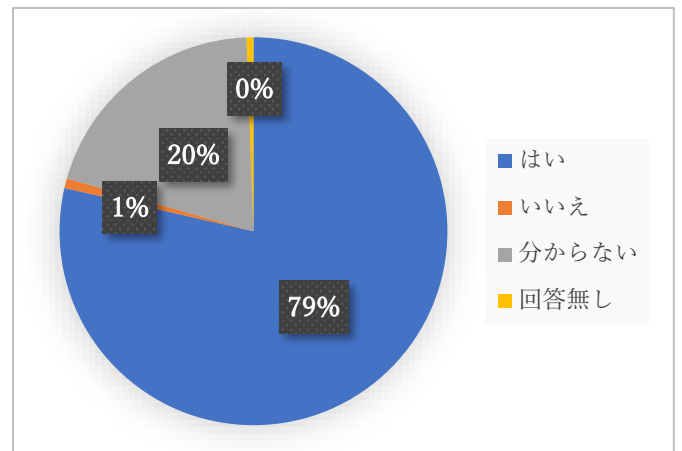
いくつかのデータがありますが、新潟県警察の平成 28 年の発表によれば、チャイルドシート不使用者の死亡率は使用者の約 25.7 倍とされています。

1016 人 48%の方が正解でした。



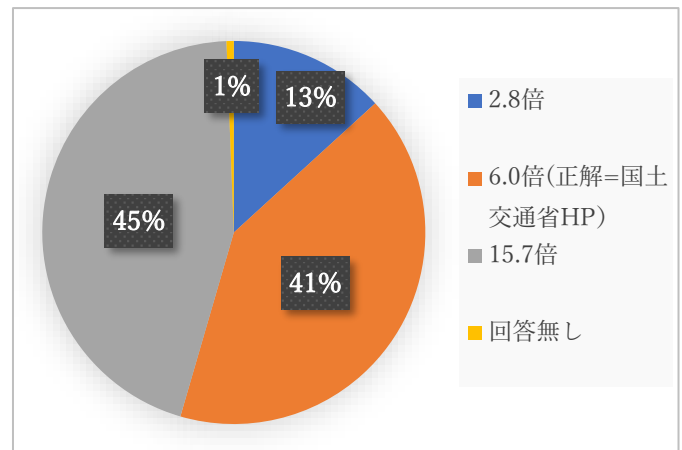
Q 9、チャイルドシートには大きく 3 種類ありますが、お子さんがお使いの種類は適切ですか？

はいと答えた方が 1658 人 79%、一方 423 人 20%の方が分からないと回答しています。



Q 10、チャイルドシートを適正に使用しないと交通事故の際の死亡重症率が何倍になると思われますか？

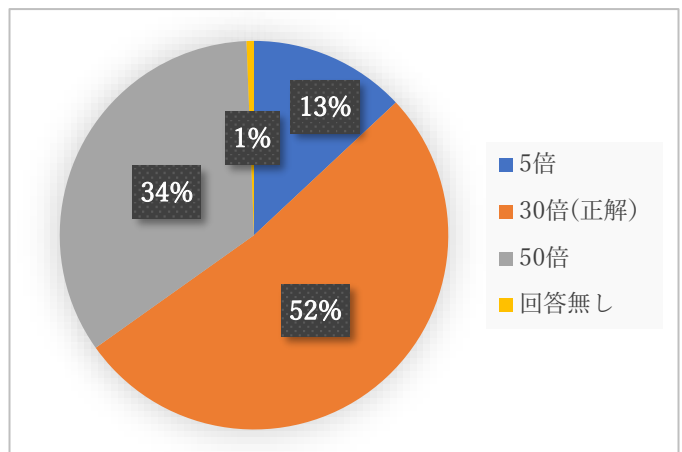
国土交通省によれば適正に使用しないと死亡重症率は適正に使用した場合の約 6.0 倍に上昇します。正解者は 871 人 41%でした。



Q 11、時速 40 k mで壁に正面衝突した時にかかる力はお子さんの体重の何倍だと思われますか？

時速 40 k mでコンクリートの壁に正面衝突した場合には約 30 倍の重力が加わります。

1100 人 52%の方が正解されています。



2、年齢別の使用率と使用しない理由の検討

県警の統計にあるように、年齢が上がると装着率が下がることが予測されますが、今回のアンケートではどうだったでしょうか？また使用しない理由を年齢別に分析することで、お子さんの年齢によって保護者の意識が違うのかを検討しました。多群間の度数分析 χ^2 乗検定で有意に多いものを△、有意に少ないものを▼で示します。解析は js-STAR version 8.9.6j によって統計解析ソフト R を使用しました。

a. 年齢別の使用率

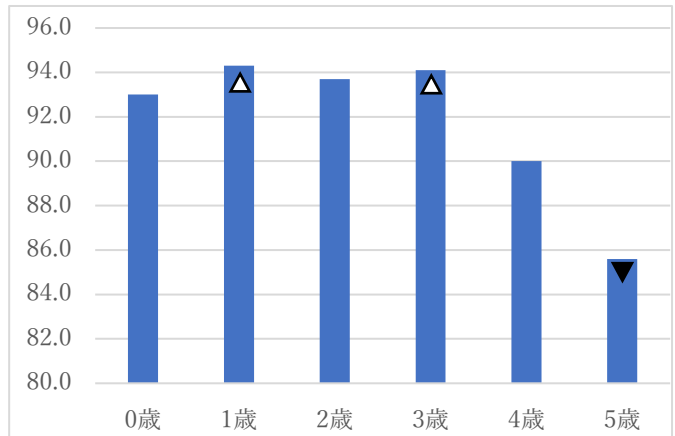
Q 2、今日受診の際に、チャイルドシートを使用してきましたか？

はいと答えた人は

0歳	93.0%
1歳	94.3%
2歳	93.7%
3歳	94.1%
4歳	90.0%
5歳	85.6%

と1歳、3歳で有意に多く

5歳で有意に少なかったです。



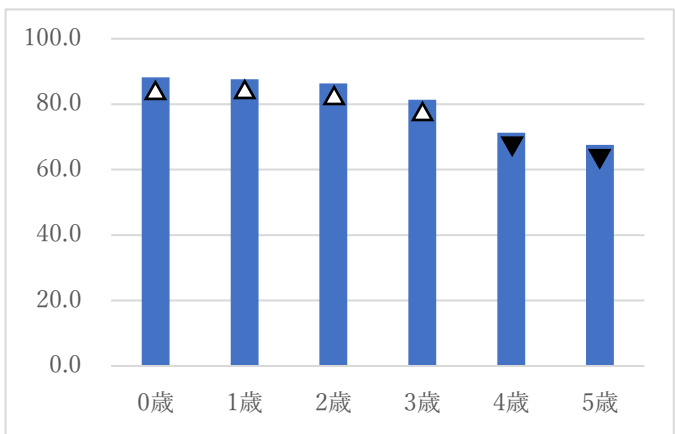
Q 3、普段お子さんが自家用車に乗る際にチャイルドシートをどの位使用していますか？

ほぼ 100%と答えた人は

0歳	88.2%
1歳	87.6%
2歳	86.3%
3歳	81.4%
4歳	71.3%
5歳	67.6%

と0歳、1歳、2歳、3歳で有意に多く

4歳、5歳で有意に少なかったです。

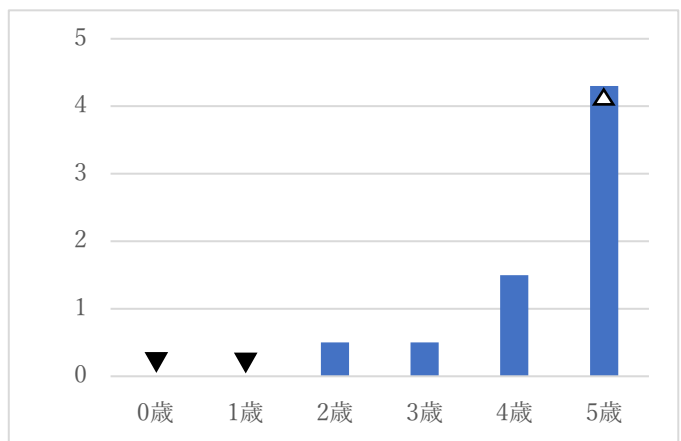


逆に、ほぼ 0%と答えた人は

0歳	0%
1歳	0%
2歳	0.5%
3歳	0.5%
4歳	1.5%
5歳	4.3%

と0歳、1歳で有意に少なく、

5歳で有意に多かったです。



b. 年齢別の使用しない理由

Q 5、チャイルドシートを使用しないことがある場合、その理由はどのようなものですか？

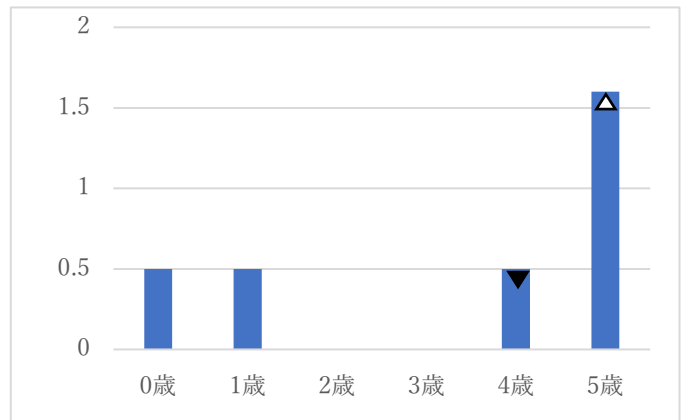
各年齢でその理由に丸を付けた人の割合を比べて有意差があったものは以下の通りです。

a. チャイルドシートが義務づけられていることを知らなかったから

0歳	0.5%
1歳	0.5%
2歳	0%
3歳	0%
4歳	0.5%
5歳	1.6%

と4歳で有意に少なく

5歳で有意に多かったです。

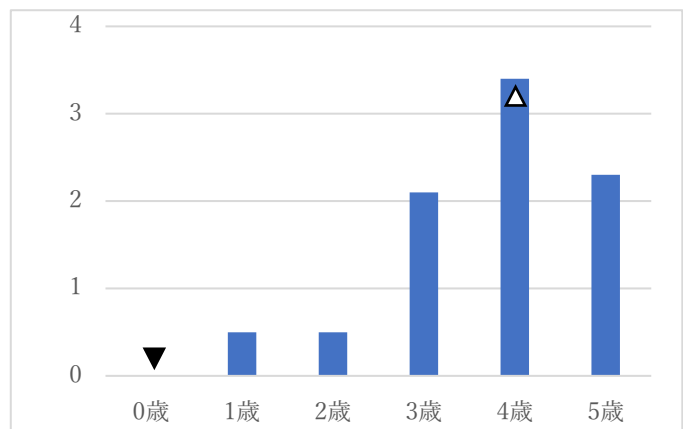


d. チャイルドシートを取り付けるとその席が固定され不便だから

0歳	0%
1歳	0.5%
2歳	0.5%
3歳	2.1%
4歳	3.4%
5歳	2.3%

と0歳で有意に少なく

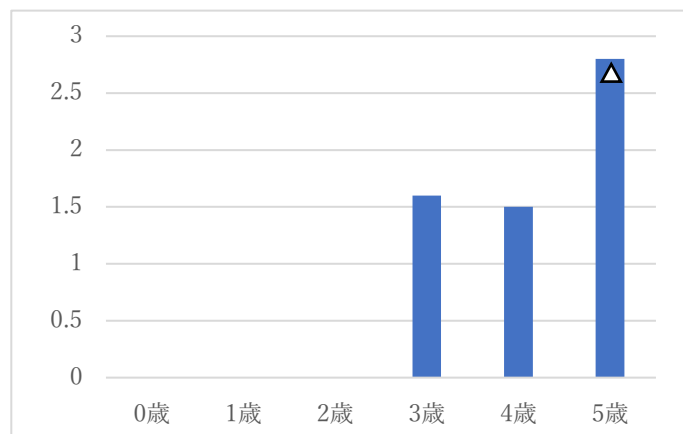
4歳で有意に多かったです。



e. 後席は比較的安全だと思うから

0歳	0%
1歳	0%
2歳	0%
3歳	1.6%
4歳	1.5%
5歳	2.8%

と5歳で有意に多かったです。

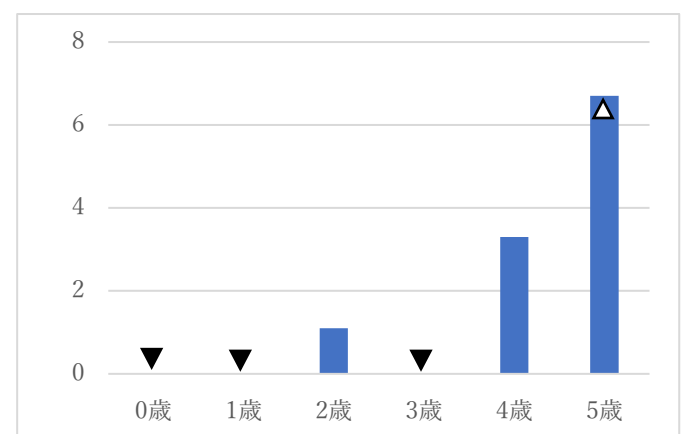


f. 大人用のシートベルトで十分だと思っていたから

0歳	0%
1歳	0%
2歳	1.1%
3歳	0%
4歳	3.3%
5歳	6.7%

と0歳、1歳、3歳で有意に少なく

5歳で有意に多かったです。

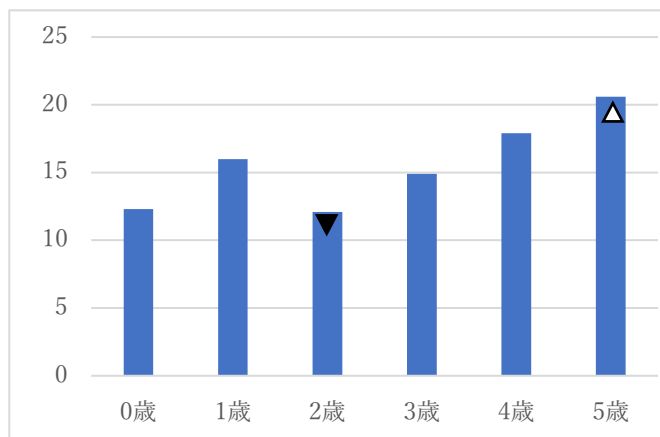


h. 近距離しか乗らないから（全体の第2位）

0歳	12.3%
1歳	16.0%
2歳	12.1%
3歳	14.9%
4歳	17.9%
5歳	20.6%

と2歳で有意に少なく

5歳で有意に多かったです。

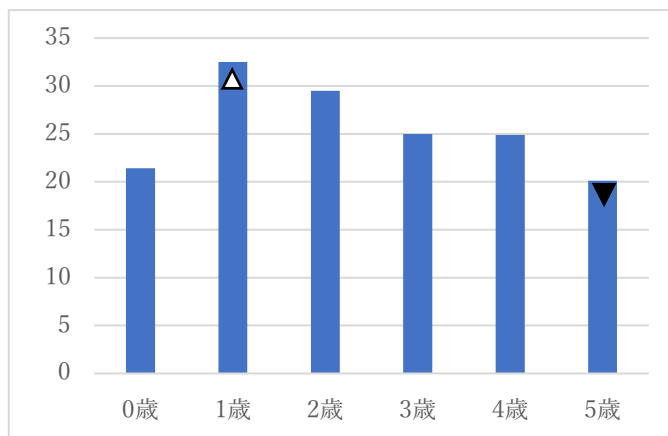


i. 子供が嫌がったから（全体の第1位）

0歳	21.4%
1歳	32.5%
2歳	29.5%
3歳	25.0%
4歳	24.9%
5歳	20.1%

と1歳で有意に多く、

5歳で有意に少なかったです。

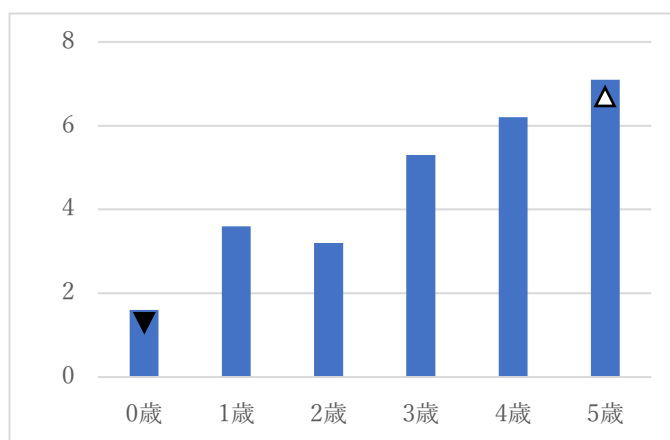


j. 面倒だから（全体の第3位）

0歳	1.6%
1歳	3.6%
2歳	3.2%
3歳	5.3%
4歳	6.2%
5歳	7.1%

と0歳で有意に少なく

5歳で有意に多かったです。



考 察

今回の新潟県内小児科外来受診者のアンケートによるチャイルドシート使用率は90%と新潟県警が実際に道路上で調べた全体で49%という数字に比べると、大変良い数字でした。途中で泣いて一時的に外した時間があっても「使用した」と答えると思われますし、小児科を受診することの多い保護者は、平均に比べ子どもの健康や安全に関心が高いため、相対的に使用する保護者が多かった可能性もあります。更には医師に見られることを考え正直に答えにくいという心理的な要因があったかもしれません。平成25年に新潟市民病院の小児科外来を受診した保護者100人を対象としたアンケート調査でも「使用している」と答えた方は85人=85%で、県警の数字よりも今回のアンケートの数字の方が近くなっています¹⁾。

普段ほぼ100%チャイルドシートを使用するという保護者が75%であったのは県警の数字から考えると良い数字かもしれません。ただしここにも先ほどと同様小児科外来で行ったというバイアスがかかっている可能性はあります。

97%つまりほとんどの保護者は、6歳未満の子どものチャイルドシートは法律で義務付けられていること

は知っていても、罰金がなく行政処分の減点だけであるためか、様々な理由で実際には使用しないことがあると答えています。その理由の第1位は子どもが嫌がるから(38%)、第2位は近距離しか乗らないから(27%)、第3位は面倒だから(9%)でした。その他には大人用のシートベルトで十分だと思っていたから(5%)、他の車に乗せる時(4.6%)、席が固定されて不便だから(3%)、子どもの具合が悪い時(2.5%)などが多かったです。

一般道と高速道路での交通事故の割合の質問では、98%：2%と正解した保護者は11%で、多くの保護者は高速道路での交通事故がもっと多いと考えていました。裏を返すと、一般道は高速道路より安全と考えているからこそ、近距離の移動の時には使用しないことがあるのかもしれませんが。実際の事故は「家の近所を法定速度内で走行している時」や「信号待ちをしている時」に発生し、正面衝突より、追突される事故の方が多いといえます。

チャイルドシートを使用するか否かで交通事故の際の死亡率が何倍になるかという質問には48%約半数の保護者が25.7倍と正解していますが、逆に51%の保護者はそれよりも少ない数字を選んでおり、チャイルドシートの死亡予防効果について過小評価をしていました。

適切なチャイルドシートを使用しているかという質問には、79%の保護者が「はい」と答える一方で、20%が分からないと回答しており、一部の保護者では、チャイルドシートにも種類があり、適した体格があることを理解していない可能性が伺えました。

チャイルドシートを適正に使用しないと交通事故の際の死亡重症率が何倍になるかという質問には、41%の保護者が6倍と正解していますが、45%の保護者はそれよりも高い15.7倍を選んでおり、チャイルドシートを適正に使用しないと重症外傷は防げないと感じている保護者の方が多数でした。平成29年のJAFと警察庁が全国16か所で行った「チャイルドシートの取付け状況、着座状況」でも、取扱説明書通りに正しく取り付けられていたものは全体のわずかに40.7%で、チャイルドシートを固定するためのシートベルトの締め付け不足やハーネス(チャイルドシートの子ども用ベルト)の高さ調節や締め付けの不適切が多かったそうです²⁾。

時速40kmで壁に正面衝突した時にかかる力は体重の何倍かという質問には、半数以上の52%が30倍と正解しており、34%はそれよりも大きな50倍と回答しており衝突の衝撃を過大に評価していました。

Q2、Q3をもとに年齢別に使用率を検討すると、県警の調査結果の傾向と同じように、やはり年齢が長じるに従い、特に5歳になるとチャイルドシートを使用しなくなることがわかります。これはJAFと警察庁の行った全国99か所で行った「チャイルドシート使用状況調査」でも同じ傾向でした²⁾。

その理由を探るため、Q5の使用しない理由を年齢別に解析すると、子どもが5歳になると、保護者もチャイルドシートが法律で義務付けられているかがあいまいとなり、体が大きくなることもあり、後部座席なら比較的安心あるいは大人用のシートベルトで十分だと勘違いし、近距離だし面倒だからとついチャイルドシートをしなくなると考えられました。一方、1歳児は子どもが嫌がり始めると、言葉で説得することは難しく、そうかといって泣かせたままというわけにもいかず、やむを得ずチャイルドシートを外してしまうのではないかと予測されました。逆に5歳位になると聞き分けはよくなるので子どもが嫌がるということは少なくなると考えられました。チャイルドシートを取り付けるとその席が固定され不便だからと感じるのは、0歳、1歳、2歳に比べ3歳、4歳、5歳が多いのは年長児ほど次の子どもが生まれ家族が増えるからと考えられました。

今回の結果をもとに、小児科医が健診などで保護者にチャイルドシートの使用を勧める際には、子どもの年齢に応じ指導の内容を少し変える必要があるように思います。0歳、1歳の小さいお子さんの保護者には、衝突時に体重の数十倍もの力が加わり抱っこでは子どもを支え切れないこと、嫌がらないためには最初からどんな時でも使用しチャイルドシートが指定席であることをわかってもらうこと、好きなおもちゃをそばに置く・パパやママが見えるようにする・聞き慣れた音楽をかけるなど嫌がらないような工夫をすることなどの指導が重要と考えます。一方、4歳、5歳の大きいお子さんの保護者には、6歳未満の子どもにチャイルドシートを使用することは法律上の義務であること、大人のシートベルトは身長140cm位からが適応

で、それまでは学童用のジュニアシートが必要であることを強調しましょう。

当然どの年齢でも、チャイルドシートの装着の有無で具体的に死亡率が 25.7 倍に上昇すること、体格に合ったチャイルドシートを使用すること、チャイルドシートを固定しているシートベルトをしっかりと締め付けて正しく車に装着すること、ハーネスの高さ調節と締め付けを適正に行うこと、正しい使用をしなければ死亡重症率は 6 倍に上昇すること、交通事故は近所で走っている時や止まっている時にも起きているので近距離しか乗らない場合でも、子どもが嫌がっても、面倒でも、急いでいてもチャイルドシートを必ず装着するよう指導するのは基本と考えられます。

私たち小児科医は、病気の予防や治療だけでなく、チャイルドシートの使用を積極的に啓発することで、子どもたちの交通事故による怪我や死亡を防ぐ必要があると思います。

さいごに；保護者の方へ

新潟市民病院の阿部裕樹先生が、交通事故で市民病院を受診した 6 歳未満の子供たちを調査しました¹⁾。その結果、チャイルドシートを正しく使用していたお子さんの 77%は何の怪我也負っていませんでした。

一方で装着なしのお子さんは、79%が何らかの怪我を負っており、そのなかには死亡例も 2 例ありました。

今回のアンケート結果でも、「子どもが嫌がるから」「近距離しか乗らないから」「面倒だから」とチャイルドシートを使用しない保護者の方が一部いました。確かに急いでいるときに嫌がる子どもをチャイルドシートに装着するのはとても面倒なことだと思います。実際に使わなくても運が良ければ何でもないかもしれません。「昨日も大丈夫だったから、きっと今日も大丈夫」と間違っただけで安心してしまいがちです。でもこれは大きな落とし穴です。子どもには、生まれた時から常に例外なくチャイルドシートを使い続けることが重要です。チャイルドシートを使用しない限りは車を動かさないという保護者の固い決意が必要です。なぜならひとたび事故にあった際には、27.5 倍も死亡率が上昇し、正しい装着をしていなければ 6 倍も死亡重症率が上昇するのです。実際に事故にあってから後悔しても遅いのです。

お子さんの命と健康を守るため、ぜひ年齢・体格に合ったチャイルドシートを正しく使用して下さい。

謝 辞

今回のアンケートにご協力いただいた新潟県小児科医会会員の先生方ならびにご回答いただいた保護者の方々に深く感謝申し上げます。

文 献

- 1) 阿部祐樹、他 チャイルドシートが交通外傷の重症度に与える影響と小児科医による啓発. 日本小児科学会雑誌 2015 ; 119 : 1526~1531
- 2) チャイルドシート使用状況全国調査結果 (2017) 警察庁/日本自動車連盟 (JAF)

<file:///C:/Users/takuya/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/ZKT2ZXGA/crsdata2017.pdf>